

【教育目標】

【知】自ら学び、考え、進んで行動する人

【徳】互いを尊重し、協力する人

【体】心身ともにたくましく健康な人

杉並区立中瀬中学校

下井草4-3-29 TEL 3399-2196

「お願いします。スキー教室の前にスキーを練習させないでください。」

校長 香西雅斗

科学と自然の散歩みちでは、サザンカの花が咲き始めました。散歩みちを通りながら、設置された樹名板を一日一枚ずつ読んでいくのが最近の日課で、そのたびに新しい発見があります。

樹名板には英名も記されており、アセビ（馬酔木）の英名が japanese andromeda であることを知りました。アンドロメダと言えば、ギリシャ神話にでてくるエチオピアの王女です。なぜそれがアセビの名前に付いているのかと、興味をそそられます。



さて、表題の「お願いします。スキー…」はスキー教室前の保護者会で話していることです。理由は、おおまかに二つあります。

小さい方の理由は、スキーは運動が得意か不得意かにはあまり関係なくできるようになるからです。3泊4日あれば、最初は雪の上で立ち上がることが難しくても、最後には、みんなリフトに乗り、スピードと方向をコントロールしながら、下りてこられるようになります。

もっと大きな理由は、多くの生徒がスキーをするのが初めてだからです。はじめは「できっこない」「どうやったらいいかわからない」「できなかつたらどうしよう」と、みんなが不安な気持ちでスタートします。

この「できない」「わからない」「無理」という状態を、教えてくれる人～スキーならインストラクター～の言葉や手本を手がかりに、「できるかもしれない」「少しずつ分かってきた」「やってみよう」と自分で乗り越えていく、この過程こそが『学習』です。

多くの生徒が初心者だからこそ、失敗や上手くいかない事、かつこ悪い事もみんなでき共有できます。つらい事の多い中でも、勇気を出して自分の限界を越えようと挑戦し、お互いに笑い合い励まし合い、自分の成長を実感する、これこそスキー教室の醍醐味（だいごみ）です。そして、実はそれこそが“学習の場である学校”のあるべき姿だと思います。それが体験できる素敵なチャンスを逃してしまうのは、本当にもったいないことです。

子どもが失敗したり傷つくのを見るのはつらい。だから「成功のために先回りし、周囲から称賛されるようにさせてあげたい。」と思うのは当たり前の事です。しかし“人間の脳は失敗からしか学べない”のも事実だし、つらい思いなしにはレジリエンス（復元力・折れても立ち直る力）も育めません。

子どもは誰もが心の底ではできるようになりたいと願っている、でも「できない」「わからない」「無理」とたじろいでしまうのが人間です。そんな時「できなくていいよ」と挑戦の芽を摘んでしまうのではなく、「できるようにしてあげる」と守ってあげるのでもなく、勇気をだして一歩踏み出せるよう支えていきたいと思います。ですから「お願いします。スキー…」

【4】その他

(20)「進路」の生徒の肯定は42%→60% [1年41% 2年64% 3年72%] 否定は25%→14%、(21)「地域連携」の肯定は46%→69% 否定は22%→8% と評価が上昇しています。保護者も同様です。

(22)「家庭との連絡」の保護者の肯定は61%→64% 否定は10%→11% (23)「保護者との相談」の肯定は63%→61% 否定は10%→7%。とあまり変化していません。

進路については、3年生での卒業後の進路に向けての準備だけでなく、1年生のお仕事見本市、2年生の職場体験と、**PTAや学校支援本部など地域と連携して職業学習をすすめる**とともに、**道徳や総合的な学習の時間に様々な方のお話を伺い、人間としての生き方について考えを深めるキャリア教育を、これからも行っていきます。**

連絡相談についてはH27でも重要な課題でした。生徒との相談は【3】の最後に記した通り、かなり改善しましたが、保護者との相談は改善していません。襟を正して**誠実で迅速、明快な対応を心がけます。**

学校アンケート裏面の自由記述欄は、学校運営委員会が閲覧し、教員と話し合う予定です。中瀬中はこれからも、(1)の学校生活への満足度でAと回答する生徒が増え、D・Eと答える生徒が少しでも減るように努めていきます。保護者、地域の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

スペシャルオリンピックス～フロアホッケー交流～

1年生は総合的な学習の時間に、スペシャルオリンピックス(SO)の支援者の方々からお話を伺い、一人一人が考えを深めました。その締めくくりとして、SOアスリートとフロアホッケーを行いました。アスリートをはじめとするSO関係者の皆さんや学校支援本部「結」の方々からは、素晴らしい時間だったと、お褒めの言葉をいただきました。



今回の体験を通して学んだことは、人は障がいがあるうとなかろうと関係がない」ということです。今まで僕は、障がいと聞くと、人より劣っていることがあったり、不自由なことがあったりと、かわいそうだと思っていました。

しかし、今回アスリートの方々のプレイを見て驚きました。今まで自分が感じていた知的障がいというものの方が変わりました。人は努力することでも何もしないものはないのかもしれないとさえも思いました。

今回学んだことを今後の生活に活かしていきたいです。自分に苦手なことやできないようなことがあってもなんとかかろうという気持ちです。(一B 金澤 侑生)

障がいのある方と触れ合ったことで、少し心の中でもっている、区別のようなものがなくなった。話すことで、同じように考えている、ともわかることができた。ただ、言葉にするのが難しいだけなのだと思います、自分と変わらないのだと知った。

家族の方のお話でもあったとおりに、これからは遠ざけるのではなく、社会を明るくするために、できるだけ共に生きる必要があると思った。(一C 小森 悠太)

学校生活 スナップ



↑
11/14 2年生
茶道体験、
正客は剣持先生



↑
10/26 小学校の連合
運動会に向け、八成小、
桃五小の児童を教える
陸上部



期末テスト前の自主勉強会



11/22 図書委員会が桃五小の1年生に絵本の読み聞かせ